



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

巻頭言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ラッセル, ジョン・G メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/3417

巻頭言

岐阜大学留学生センター長 ジョン・G・ラッセル

center (noun) : 1. a pivot or axis. 2. the source of an influence, action, force, etc. 3. a principle point, place or object. 4. the core or middle of anything.

The Random House Dictionary より

英語の Center という言葉にはさまざまな意味がある。「中心」「中央」「核心」、つまり活動や活躍の中核的な空間・場所という意味をもっている。センターはさまざまな機能及び役割を果たしている。それは優れた教育的な環境を提供するだけではなく、情報をはじめ、文化、考え、理解などが交換できる文字通りの中心的な存在として機能しなければならない。

2004 年、4 月に留学生センターは 8 年目を迎えた。この 8 年間に留学生センターも岐阜も日本も変りつつある。国立大学は独立行政法人化され、岐阜大学周辺の、のどかな田園風景がいたるところ駐車場となり、医学部や大学病院も建てられた。岐阜大学市内のあちこちの街角で外国人に出会うことが以前より、はるかに多くなっている。毎年、日本で学ぶ外国人留学生の数も増加しつつあり、地域的にも全国的にも日本の国際化が進んでいる。今年岐阜大学の留学生の総数は既に 395 人になった (2005 年 1 月現在)。

目まぐるしく変化する社会の中で、留学生センターは国際社会、特に岐阜の国際化にいくつかの重要な貢献をしている。その一つは日本語・日本文化を学習するための快適な環境を提供していることであり、もう一つは日本人の学生と留学生同士の文化的交流、さらには地域との交流を推進していること等である。一方で、日本にやってくる海外の留学生および外国の大学に入学を希望する本学の日本人学生の指導と助言も行い、さらに、岐阜大学の知的環境、将来の日本研究者・学者を育成し、最新情報・理論などを発展させ、提供しなければならないという役割もあるが、センターは研究機関の一つでもあるということを忘れてはならない。初代の中須賀徳行留学生センター長が本学の留学生センター紀要を創刊してから 6 年がたつ。それ以降、留学生センターは日本語教育、多文化コミュニケーションなど日本語・日本文化に関する研究の場としても機能し、紀要を通してその研究を学生、研究者や他大学に普及することに力を注いでいる。

現代はいわゆる「情報化社会」によって、どこの国でも大勢の人々がテレビや本、雑誌、マスメディア、インターネットなどを通して多文化にさらされている。しかし、大多数の人々にとってその多文化経験は仮想的 (virtual) なもので、人間と人間との触れ合いによる実在的なコミュニケーションというのではなく、テクノロジーや主流メディア、サイバースペースの媒介により獲得した情報に基づいた想像上の経験である。

情報の量の増加やその媒体が必ずしもより理解を深めるという保証はない。実際、われわれの目や耳に入る外国に関する情報のすべてが正確であるというわけではないし、その情報の多くは表面的なものにしか過ぎない。外国及び外国人についてのイメージが作られるのにはマスメディアの影響が非常に大きいのである。残念ながら、その影響は外国人に対する理解を深めるどころ

か、むしろ外国人や留学生に対する歪んだ先入観や偏見を助長する報道が多く見られる。近年の日本の犯罪率の高まりに外国人、特にアジア系の人達にたいして日本人の恐怖心を煽る報道には疑問さえ感じる。日本人の凶悪な犯罪には目をつぶるが犯人が特定されない場合“ワイドショー”的な目で疑いを向けるように見受けられる。意識的にせよ無意識にせよ、この傾向は深く日本社会に浸透している。

つまり、現在の情報には質の問題と偏向の問題があり、情報の量というよりも情報の質の方が重要である。真の国際化を実現するためには、多文化との直接的な接触が非常に大切である。その機会を育てることが留学生センターの一つの任務でもある。言い換えれば、多文化・異文化に関する情報が増加しているからこそ、生の人と人との交流とコミュニケーションがいつそう重要となっている。近い将来、日本政府は、少子化による人口の急激な減少に対応するため、フィリピンとの協定により看護・介護の現場へ外国人労働者を受け入れる案を出している。日本人はこれから益々否応無しに多文化の人々との共存に直面しなければならない時期に差し掛かっている。

21 世紀はグローバル化社会の時代であると言われている。しかし、グローバル (global) には忘れているもう一つの側面がある。それは、地域社会 (local) の存在である。すなわち、21 世紀はグローカル (glocal) つまり、global と local の時代でもある。言い換えれば、中核だけが一方的に周辺に影響を及ぼすのではなく、周辺も中央に影響を及ぼしているということである。多くの留学生にとって留学生センターが日本への窓口になっている。留学生センターは冒頭で述べた定義通りの中心的な存在として、外国人留学生に地域社会の文化と人に接する機会を多く持たせ、日本人学生にも幅広く海外のさまざまな地域へ留学する機会を増やすように推進し、学生のみならず、一般の人々の知らず知らずに蓄積された先入観や固定観念を打ち砕き、住み良い社会を作り出す。その先端に留学生センターが立ち、実践し更に発展していくことを望んでいる。